

令和元年度 勝山市地方創生総合戦略及び地方創生交付金等事業における外部評価結果について

1 評価の実施について

地方創生の推進にあたっては、国から、効果的な PDCA サイクルの構築により地方創生総合戦略自体とそれに係る交付金等事業の効果検証を行うこととされている。本市においては、勝山市地方創生総合戦略と市が採択を受けた地方創生交付金等事業に係る令和元年度の事業進捗状況について、産官学金労言の代表者により構成された「勝山市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議」による外部評価を実施した。なお、コロナ禍により書面により外部評価を行った。

2 評価基準

(1) 内部評価

重要業績評価指標（KPI）の達成度のほか各施策における令和元年度の実績、令和2年度以降の課題と対応策について、事務局及び担当部署が内部評価を実施した。

- ① 勝山市地方創生総合戦略の重要業績評価指標（KPI）の評価結果（21項目）
- ② 地方創生交付金等事業の重要業績評価指標（KPI）の評価結果（22項目）

(2) 外部評価

内部評価書を、勝山市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議委員に報告し、書面にて専門的見地からの意見を頂いた。

委員から出された多数の意見を資料の「委員の意見欄」に記載するとともに、各課にフィードバックし今後の政策推進の参考とする。

勝山市地方創生総合戦略 令和元年度効果検証

No	担当課	担当課	頁
重点戦略 1	ジオパークの豊かな自然と歴史の中に暮らす魅力を高めて、定住化を促進する	商工観光・ふるさと創生課 ジオパークまちづくり課 農林政策課 未来創造課	Page 1
重点戦略 2	勝山市の地域資源をさらに磨き、U・Iターンに向けた多様な仕事と需要を生み出すなど、多様なチャレンジが可能な仕組みをつくる	商工観光・ふるさと創生課 農林政策課 ジオパーク・まちづくり課	Page 4
重点戦略 3	縁結びから子育て、教育まで、充実した環境の中で、勝山を誇れる次の世代を育てる	健康長寿課 福祉・児童課 教育総務課 未来創造課	Page 7
重点戦略 4	豊かな地域コミュニティの中で、いつまでも健康で、安全・安心に暮らせるまちを創る	健康長寿課 環境政策課 商工観光・ふるさと創生課 監理・防災課 都市建設課 ジオパーク・まちづくり課 未来創造課	Page 9

重点戦略1 ジオパークの豊かな自然と歴史の中に暮らす魅力を高めて、定住化を促進する

① 重点戦略に係る数値目標(KPI)

No	重点戦略に係る数値目標(KPI)	項目	平成26年度 (基準値)	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度 (目標値)	達成度	委員の意見
1	転入者人口(人)	目標値	—	427	431	435	439	443	447	451	未達成	<ul style="list-style-type: none"> ○目標値に達していないが増加傾向にあるので良い。 ○転出を減らす施策も必要。(福井市勤務者への対応等) ○事業の効果が見られるが、人口の維持のためには転出者の食い止めが必要であり、市の魅力アップへの取り組みが必要。 ○全国的に人口減少傾向にある中、勝山に居住している方に対し、住宅の新築・改装への補助を行うなど、転出者を減少させる施策を検討してはどうか。親に対する市の企業情報の発信手法を再確認してはどうか。 ○転出者についてその理由を調査してはどうか。
		実績値	423	433	420	411	401	437				
2	うち市の支援を受けて転入した人の数(人) ※H27～R3累計	目標値	—	3	4	12	16	20	26	32	達成	<ul style="list-style-type: none"> ○転入者人口の実績に対し、支援を受けて転入した人の目標値が低すぎるのでは。 ○支援があるから転入したのか、手続き中を知って申請したのか不明だが、より積極的なPRが必要。(HP等) ○近年転入者が増加しているが、市の支援策の中で何が効果的なのか明らかにし、有効な支援策を重点的に継続してほしい。
		実績値	3	3	10	61	113	169				

② 重点施策

No	施策名	担当課	内容・実績(令和元年度)	課題と対応策(令和2年度以降)	委員の意見
1	ふるさと勝山への移住・定住促進に関する情報発信の強化	商工観光・ふるさと創生課	<ul style="list-style-type: none"> ●勝高同窓会会報の発送時や勝山市成人式の機会をとらえ、U・Iターン推進のチラシやそれに係る補助制度の情報を提供。 ●勝山市を愛する気持ちを醸成するため、市の出身者で全国的に活躍している方や市内の魅力的なスポットの紹介等を行うフリーペーパー「ROOTs」を制作し、ふれあい市民の方々に配布。 【R1実績】全2回配布 ●勝高卒業生の大学等への進学後の情報発信に向けた卒業生情報の収集を勝高と連携して実施 	<ul style="list-style-type: none"> ●新型コロナウイルス感染症の影響から、移住・定住の状況は確実に変化している。従来の支援策だけでなく、テレワークやワーケーションなど関係人口の増大とそこからの移住・定住への発展という、新たな展開を意識しつつ、住環境の充実や働く環境の整備など総合的な対策が重要である。引き続き、地域おこし協力隊などIターン者の意見を踏まえつつ、「住む・働く」をパッケージ化した新たな対策を講じながら、情報発信を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○コロナの影響で市内に残る・戻るの選択肢が増える可能性がある。一番に働く環境の対策を検討すべき。 ○勝山出身の県外大学生に「ふるさと観光大使」を務めてもらい、勝山に関しての情報発信をしてもらう中、つながりを持つことでUターンを促すことができるのではないかと。 ○三大都市圏へのアピールを増やし、福井にゆかりのある都市圏の経営者へ接点を持つべき。 ○コロナ禍により生活様式に変化があるが、実務としては、限られた環境・資源で行う必要がある。現在の施策の継続を行う中で、今後の生活様式を見ながら新たな取り組みの検討が必要。 ○地域おこし協力隊などの意見を踏まえ、市のPRを積極的に進めて欲しい。
2	U・Iターン者の住まいや仕事探しに向けた支援の強化	商工観光・ふるさと創生課	<ul style="list-style-type: none"> ●ふるさと勝山移住定住促進事業として、移住者へ家賃助成等の支援やUターン者に対する奨励金制度を実施したほか、新たに東京23区からのUターン者に特化した奨励金制度と同窓会への補助制度を創設。 【R1実績】家賃助成：32件 3,316千円 市外通勤：4件 40千円 引越費用：12件 758千円 Uターン奨励金：19件 950千円 同窓会補助：12件 240千円 ●地方創生推進交付金を活用し、市内企業の求人支援するための情報発信ツール(企業紹介冊子「いんとろ」)やそれにリンクしたHP)を作成したほか、市内就職者増加に向けた市内企業への支援を実施(インターンシップの強化や市内中高校生向けの企業情報発信等)。 	<ul style="list-style-type: none"> ●補助制度のうち何が特に求められているのかを踏まえ、抜本的な見直しを行いつつ、新たな生活スタイルを注視して、適宜柔軟に制度のブラッシュアップを図っていく。 ●市内企業の求人支援については、事業への参加企業の増加にあわせ、市内就業者の拡大に向けてインターンシップの内容充実など具体的な対策を企業側と相談・連携しながら講じていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○コロナ禍により、今後は県内にいるという選択肢が増えることが考えられるが、Uターンに対する補助金制度自体、必要なかどうか検討すべき。 ○市役所が、U・Iターン希望者の窓口となり、市内企業への就職のお世話(マッチング)を実施してはどうか。 ○市外通勤の補助は面白いと感じた。補助があれば、自宅(又は市内)からの通勤が増える可能性がある。 ○HP「いんとろ」に就職した場合の住まいの情報(空き家バンク)、周辺環境(保育園、学校、病院など)、各種支援策(Uターン奨励金、家賃補助、子ども医療費補助など)等、移住定住情報が一元的に分かる様、バナーを貼ってはどうか。 ○インターンシップ事業については、新卒者やUターン対象者(就職氷河期世代)などターゲットに合わせた内容を検討すべき。また企業紹介冊子への参加企業増加の取組みを実施してほしい。更に市独自のU・Iターン者への支援策として、コロナ禍において市外、県外学生を対象に、リモート等を活用して企業との接点を生む機会を更に増やしてはどうか。
3	勝山暮らし・田舎暮らし体験の充実	商工観光・ふるさと創生課 農林政策課	<ul style="list-style-type: none"> ●お試し移住体験施設は、全国的に同様のものが増加しているが、現在も一定の利用者がある。(R1:8団体、62泊) ●1日～数日間、農家に宿泊しながら農作業等の田舎暮らしを経験する体験メニューを実施した。 【R1実績】延べ137人 	<ul style="list-style-type: none"> ●関係人口を定住人口につなげていくよう、そこに求められるハード・ソフト両面での支援策を、地域おこし協力隊をはじめとしたIターン者と意見交換するなかで、具体的に検討する。 ●田舎暮らし体験については、主に5つの体験メニューがあるが、人気のある体験メニューとそうでない体験メニューに差がでてきた。受入農家のメニューの再確認、魅力ある体験メニューを開発し、申込者の選択肢を広げる。また道の駅を基点としたちよこっと体験も開拓していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○体験メニュー利用で定住に繋がった実績を把握し、今後の事業展開に活かすべき。 ○コロナ終息後、スムーズに取り組める体制の維持が必要。 ○全国的に本事業を実施しているため、差別化を図る必要がある。また、田舎暮らし体験は、農家のみならず観光ツアーを含めた勝山市全体を体感できる民泊の活用が必要と思う。そのため市独自の民泊事業者への支援制度を検討して欲しい。 ○他の自治体に関するさらなる調査を行い、勝山市のユニークな施策の実施に向けて英知を集めて欲しい。

No	施策名	担当課	内容・実績(令和元年度)	課題と対応策(令和2年度以降)	委員の意見
4	U・Iターンの促進に向けたインセンティブの強化	商工観光・ふるさと創生課	<ul style="list-style-type: none"> ●U・Iターンの促進による地方創生の実現に向け、補助金制度の拡大等を図った。(上述のとおり)これにより、移住にあわせて市の窓口を活用して、支援を受ける人数は依然として増加している。 【R1実績】 H30:52名 R1:56名 ●U・Iターン者の積極的な確保という観点から、「地域おこし協力隊」の採用条件について大幅な見直しを図り、4名を採用。 	<ul style="list-style-type: none"> ●市の補助制度の活用者は年々、増加傾向にあるものの、活用頻度に差があることから、活用者アンケートを実施し、傾向を分析する。あわせて、令和元年度をもって、概ね3年程度の期間が経過することから、アンケート結果をベースに制度の創設・改正・廃止を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○補助制度活用者アンケートの結果を活用し、現行の市補助制度廃止や新たな補助制度の立ち上げに向けた検討を進めて欲しい。
5	地場産業への理解を通じた定住促進	商工観光・ふるさと創生課	<ul style="list-style-type: none"> ●若年層には市内企業の魅力が十分に伝わっていないどころか、その存在すら知られていないのが実状である。その情報を分かりやすく伝える情報発信対策として、企業紹介冊子「いんとろ」の配布やそれにリンクしたポータルサイトの内容充実(30社増加)を図った。また、新たに市内中学生向けの市内企業紹介(プレゼンテーション形式)や高校生の市内企業1day体験を実施した。 ●市内企業の採用力を向上させるため、専門家を招いて企業塾を開催した。(インターンシッププログラムの深化やプレゼン能力の向上) 	<ul style="list-style-type: none"> ●内容の充実を図った企業紹介冊子(全戸・地元高校生配布)やホームページのPR活動の徹底により、情報発信力を強化する。 ●中高生が市内企業を具体的に知るプログラムや企業インターンシップをはじめとした企業の取組みのレベルアップにつながる新たな対策を市内企業とともに検討し、連携して取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「いんとろ」に関しては企業側からも好評で続けてほしいとの要望が毎年ある。市民にも勝山の企業の情報がわかってもらえ、継続することで少しでも定住促進につながると考えられる。 ○生徒や学生の親に対しての企業PRや地元就職への意識付けも重要と考える。例えばPTAと連携した発信や大学生の親向け企業訪問・説明会の企画なども効果的と考えられる。 ○市内に魅力的な企業はあるが、若者のニーズにマッチしているかは不明であり、今後は、企業誘致、サテライトオフィスの誘致、起業の支援で多様な選択肢を提供する必要がある。特にコロナ時代、テレワークが拡がり、チャンスが到来しているのではないかと。 ○「いんとろ」の制作は良いと思うが、県外就学者への情報提供も必要であると考えられる。 ○市内優良企業の魅力が十分に伝わっていない。現在、働き方改革のもと、国や県では各種優良企業の認定制度があり、それを取得することにより、企業のアピールができる。取得を支援する取り組みがあるとよい。 ○「いんとろ」やインターンシップ等を通じて更なる地元企業の紹介を継続して実施して欲しい。また、産業フェアで開催した「中学生への市内企業紹介事業」を支援して欲しい。
6	若い世代の流出抑止に向けた専門学校等の誘致	未来創造課	<ul style="list-style-type: none"> ●将来的な誘致に向けて、協定を締結している大学を中心に、連携事業を実施した。また、市の各種審議会等への委員の派遣等により、専門的知識の習得に効果があった。 【R1実績】 ・インターンシップ生の受け入れ ・福井県立大学からソーシャルワーク実習を受入 	<ul style="list-style-type: none"> ●福井県立大学の第三期中期計画に掲げられている古生物関係の新学部創設について、県立恐竜博物館近傍での設置を福井県知事に要望する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○県内・県外の大学のゼミと連携し、勝山市の課題解決を研究テーマとしたフィールドワークを行ってもらい、その中からもっとも実現性・効果的なものを市の施策として取り組んでほしい。
7	国の機関や県等と連携した事業展開	商工観光・ふるさと創生課	<ul style="list-style-type: none"> ●国や県の補助金を活用した事業に多数取り組むことにより、市の財政の圧迫を避けることができることから、活用する事業数は年々増加している。 ●令和元年度においては、県の新ふるさと創造推進事業や国の地方創生交付金事業、移住支援金事業を活用するなかで、上述の各種事業に取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ●国、県の補助事業を活用して実施したこれまでの事業を十分精査し、勝山市の魅力発信、地域経済の発展に結びつく補助については、現行事業の継続的な発展をベースとして、積極的に活用していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○国・県の補助金を受けることは大変だが、低コストで事業の幅も広がり、メリットが多い。積極的に取り組んでいただきたい。
8	魅力ある定住先としてのジオパークの魅力発信	ジオパークまちづくり課	<p>10月29日～31日に日本ジオパーク再認定審査が実施され、恐竜渓谷ふくい勝山ジオパークは再認定を受けた。今回の審査を通じて、あらためて勝山市の強みである、地域資源や文化を尊重する市民活動が地域の魅力アップに繋がっていることが再認識できた。様々な魅力や市民活動については、HPやSNSでの発信はもちろん、報道機関への情報提供等、積極的な発信を継続して行ってきた。</p> <p>また、小中学生に対してのジオパーク学習では、積極的に主体的な学びの機会を創出し、「ジオパーク再認定審査」や「のぞみ×環境フェスタ」等において、児童・生徒が自ら勝山市の魅力の発信を行った。</p> <p>【R1実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民による主体的なまちづくり活動への助成研修18事業 ・市内小中学校等を対象としたジオパーク学習の実施24回 ・自然体験学習等の実施 参加者数 1,568人 ・ガイド養成講座参加者数 16人 	<p>既存のジオパーク啓発リーフレットを、これまで以上に魅力が伝わる内容に刷新し、各所に設置するとともに、様々なイベント等で配布を行い、積極的なジオパークの魅力発信に努める。</p> <p>教育面では、地域E S D活動推進拠点にも登録されている勝山市の強みを活かし、教育委員会や小中学校と連携を強化し、E S Dの観点から、ジオパークの魅力を児童・生徒に伝えるとともに、子供から親世代へのジオパークの魅力の伝達を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○子ども向けのジオパーク学習は大変興味深い。子どもから大人までさらにジオパークの面白さが伝わっていくと良い。 ○ジオパークを含めた観光事業の充実に努める姿勢は、高く評価できる。学生の内から地元の良さを発信する教育は大切。

③ 重要業績評価指標

No	重要業績評価指標(KPI)	項目	平成26年度 (基準値)	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度 (目標値)	達成度	委員の意見
1	田舎暮らし体験者数(人) ※H27～R3累計	目標値	—	100	200	300	400	500	700	950	達成	○どのように移住増加に繋がっているのか、分析をしっかりと行うべき。 ○田舎暮らしへのあこがれが根強いことを裏付け、手法によっては大きな可能性を感じる。 ○体験者数が増加しており取組みがうまくいっているが、参加者へのフォロー状況や感想を検証していく必要がある。
		実績値	98	198	380	561	685	822				
2	市内企業説明会に参加した勝山市の高校生の人数(人)	目標値	—	42	44	46	48	50	50	50	未達成	○実績値が低いのが残念。 ○人数が増えるような説明会に見直していただきたい。 ○参加した人数の他、実際就職した人数の確認も必要。
		実績値	38	38	40	39	38	33				
3	U・Iターンに関して国や県と連携して行った事業数(件) ※H27～R3累計	目標値	—	1	2	3	4	5	14	23	達成	○実施した事業毎に効果検証を実施してはどうか。
		実績値	—	2	5	9	12	15				

重点戦略2 勝山市の地域資源をさらに磨き、U・Iターンに向けた多様な仕事と需要を生み出すなど、多様なチャレンジが可能な仕組みをつくる

① 重点戦略に係る数値目標(KPI)

No	重点戦略に係る数値目標(KPI)	項目	平成26年度 (基準値)	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度 (目標値)	達成度	委員の意見
1	観光入込客数(万人)	目標値	—	175	180	186	193	200	215	230	達成	○コロナ後を見据えた準備が必要。 ○来訪者・市内で消費した方にアンケートを実施し、目的・どこから来たか・感想等を把握すべき。 ○道の駅オープンや恐竜博物館の機能強化により、来場者を市街地に回遊させたり、市内で宿泊させる施策を検討すべき。入込客数に対する宿泊者数は平成30年で4.3%で、日帰り観光客が大半。滞在型観光にシフトできれば観光消費にも好影響が出てくると考えられる。
		実績値	171	203	199.5	217.6	210.7	221.5				
2	観光消費額(億円)	目標値	—	28	29	30	32	34	44	54	達成	○コロナ後を見据えた準備が必要。 ○実数に近づけるため、道の駅やジオターミナル等での消費単価を参考にしているかどうか。
		実績値	27	27.67	32.5	47.73	47.65	50.68				

② 重点施策

No	施策名	担当課	内容・実績(令和元年度)	課題と対応策(令和2年度以降)	委員の意見
1	観光まちづくりを進めるDMOの形成	商工観光・ふるさと創生課	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年1月に勝山市観光まちづくり(株)が地域DMOに登録された。(県内2番目) 花月楼の運営および「勝山市ジオターミナル」の運営を行った。また、道の駅「恐竜渓谷かつやま」の開業準備を行った。 【R1実績】 花月楼の年間売上 : 17,341千円 【R1実績】 ジオターミナルの年間売上 : 236,073千円	<ul style="list-style-type: none"> 「勝山市ジオターミナル」のお土産等販売益は年々増加傾向にある。今後も、観光まちづくりのためのDMO運営の収益の柱としていく。 令和2年度は、勝山市道の駅「恐竜渓谷かつやま」がオープンする。道の駅、花月楼、ジオターミナルとあわせた3拠点が完成することで、DMOとしての活動を本格化していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 勝山市観光まちづくり(株)には、3拠点の収益をベースに、DMOとしての活動にウェイトを高めていくべきである。 観光面での大きな武器は恐竜。恐竜博物館に向けてニューホテルは様々な仕掛けがもっと増えていけば良い。 各取り組みについて高く評価したい。コロナ禍で目標の達成が困難だが、終息時に積極的に活動できるように準備が必要。又、道の駅の整備も継続的に行われることにより期待したい。 道の駅の売上は農産物を含め順調に推移しており、市内生産者の発展に大きく寄与している。観光の産業化を進めるうえで、核となる観光まちづくり(株)の取り組みを更に支援して欲しい。
2	勝山市の地域資源を活かした観光・交流拠点の整備	商工観光・ふるさと創生課			
3	観光における他市町との連携	商工観光・ふるさと創生課	<ul style="list-style-type: none"> 広域組織「越前加賀インバウンド推進機構」において、各市町と連携した出向宣伝や海外メディア・旅行エージェントの招聘による営業活動等を実施した。 北陸新幹線福井開業時を目指して、大野市や永平寺町と連携し、エリア内の周遊促進を図る事業を展開した。 	<ul style="list-style-type: none"> 各市町との連携事業は、コロナウイルス発生以前は順調に観光客数やインバウンドの増加に効果を発揮していた。新たな周遊の体験ツアー造成やアフターコロナにおけるインバウンド観光の推進に、引き続き取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 北陸新幹線、中自道の開業開通に伴う観光客、交通手段の流れの分析が必要。コロナ禍における近隣都市との連携のあり方を再度検討する必要がある。大野道の駅が今春オープンする。相乗効果が生まれる連携を推進すべき。
4	インバウンド観光の促進	商工観光・ふるさと創生課	<ul style="list-style-type: none"> 平成28年に設立された「越前加賀インバウンド推進機構」を中心に、地方創生推進交付金を活用したインバウンド観光推進事業を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 本エリアの認知度を向上させるため、引き続きエリアの魅力を情報発信し、アフターコロナにおける誘客準備を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 勝山市においては、まず最初にどの国からインバウンドを進めるか明確にする必要がある。また、勝山独自の資源である恐竜や平泉寺等のPRを積極的に進めるべき。事業者のインバウンドに対する認識はまだまだ低い。個々ではなく、各観光施設や近隣地域との連携した情報発信が有効ではないか。 ○ある程度長い目でアフターコロナに備えるべき。

No	施策名	担当課	内容・実績(令和元年度)	課題と対応策(令和2年度以降)	委員の意見
5	観光の産業化に向けた特産品・土産品開発と新たな勝山ブランドの創造	商工観光・ふるさと創生課 農林政策課	<ul style="list-style-type: none"> ●令和2年春オープンの勝山市道の駅「恐竜渓谷かつやま」において提供する勝山の特産品または特色を活かした飲食メニューを開発した。 ●市内事業者による地域資源を活用した土産品開発、販路拡大事業を支援した。 【R1実績】『恐竜ピンバッジ』の開発 『礪石庵PR映像』の作成 ●勝山市漁業協同組合が、県の6次産業化プランナーのアドバイスを受けて、商品のさらなるブラッシュアップを行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ●勝山市道の駅「恐竜渓谷かつやま」がオープンすることにより、福井県立恐竜博物館前の飲食施設「勝山市ジオターミナル」、まちなかの「旧料亭 花月楼」の市内三拠点が整備されることになる。勝山市内で提供する飲食メニューや土産品などをブラッシュアップしていくことにより、観光客のまちなか誘客、周遊を図る。 ●道の駅がオープンし、勝山市の既存特産作物を生かした商品開発が課題となっている。県とも連携し、6次産業化プランナーを活用した商品開発の普及に努めることで、農業者の収入増加を支援する。 	<p>○土産品開発は、観光客のニーズを把握しニーズに合った開発をするべき。そのために、まちづくり会社、専門家や支援機関等を交えた商材検討が大切。加工場があまり活用されていない。道の駅出荷者への貸し出し、または道の駅管理施設にして「喜ね舎」のように、そこでしか買えない物を買うために行こうと思えるような商品開発を行う必要がある。</p>
6	農業における収益性と魅力の向上	農林政策課	<ul style="list-style-type: none"> ●エゴマを勝山市の特産品とするため、平成29年度より創設した勝山市特産作物生産拡大出荷奨励事業では、エゴマの栽培に取り組む生産者の出荷に対して補助金を交付した。 【R1出荷量】879.0kg(補助対象者数:34件) 【H30出荷量】1188.9kg(補助対象者数:30件) 【H29出荷量】1449.8kg(補助対象者数:28件) 	<ul style="list-style-type: none"> ●「道の駅」がオープンし、園芸作物等出荷奨励事業を創設した。また、令和元年度より、水田以外で作付されたエゴマも補助の対象とし、生産拡大につなげる。これにより、農業者をはじめとした事業者の収入増加を支援する。 	<p>○道の駅ができた事により農家の収入増加になっているのか、しっかりと分析する必要がある。</p> <p>○出荷量と補助対象者数が反比例しているが理由をしっかりと分析すべき。</p> <p>○生産者への補助金交付だけではなく、安定した生産体制の整備も含めた支援も併せて実施をする必要がある。消費ターゲットは観光客より地元住民。鮮度、価格、品数が揃えば客数は増加する。「喜ね舎」が良い参考事例になると思う。道の駅とスキージャンプの連携事業のように、民間との連携を更に拡大していただきたい。</p>
7	金融機関と連携した地元企業の支援	商工観光・ふるさと創生課 農林政策課	<p>中小企業の経営の安定と振興のため、次の支援を実施した。</p> <p>【R1実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中小企業振興対策資金 21件 146,850,000円 ・小規模企業振興対策資金 5件 15,840,000円 <p>●市の融資を受けた市内の企業者に対して金利負担を軽減するため、利子補給を行った。 【R1実績】110件 2,191,100円</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●国、県の新型コロナウイルス感染症の影響を受けている企業への多様な支援策が行われているので、金融機関と連携し地元企業への周知を行うとともに支援を行う。 	<p>○市が独自に行った金利負担は、地元企業への支援への強い気持ちを感じられた。</p> <p>○キャッシュレス決済が主流となり、事業者への導入推進を引き続き推進して欲しい。</p> <p>○事業者へのさらなる分かりやすい説明対応を期待。</p>
8	市民のチャレンジを応援	ジオパークまちづくり課	<ul style="list-style-type: none"> ●勝山市わがまち助成事業に、市内の若者グループや地域で活動する女性グループ等より新たなチャレンジにつながる7件の申請があった。7件の申請の内5件は初申請団体であり、新たな事業にチャレンジしたいという需要に対して効果的な助成ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ●単年度限りの事業ではなく、持続可能な取り組みとなるように、申請段階から綿密なヒアリングを行う。 ●SDGsの観点を踏まえた幅広い視点での活動を推進することにより、多角的な角度からの事業申請を促す。 	<p>○あまりハードルを高くすることなく、誰でも気軽にチャレンジできる方が、良い結果につながったり長続きする活動になるのではないかと。</p> <p>○新しい世代や女性の考え方など観光産業化に取り入れられる企画を行ってはどうか。(商品開発や観光事業など)</p>

③ 重要業績評価指標

No	重要業績評価指標 (KPI)	項目	平成26年度 (基準値)	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度 (目標値)	達成度	委員の意見
1	勝山市中心市街地への入込客数 (万人)	目標値	—	27	27	30	33	40	41	42	未達成	○勝山市にとってとても重要な指標。コロナ禍においては県内からの客数を増やす取り組みも必要。 ○実績が伸び悩む要因をしっかりと分析すべき。 ○「花月楼」の更なる活用をお願いしたい。
		実績値	27	24.7	22.8	23.5	18.7	23.2				
2	新たに設置する日本版DMOの数 (組織)	目標値	—	—	—	—	—	1	—	—	達成	特になし
		実績値	—	—	—	—	—	1	—	—		
3	勝山市における外国人延べ宿泊者数 (人)	目標値	—	1,860	1,890	1,930	1,980	2,050	4,300	6,500	達成	○令和2年からの目標値が高いのではないかと。 ○宿泊施設が増えれば更に増加すると思う。但し設備産業なので、民泊等、低コストでの宿泊施設の確保が必要。補助金も検討すべき。 ○どこの国から訪れ、どこに宿泊して、どこで食事・土産品を購入するかなどの動向の分析が必要。
		実績値	1,840	3,499	2,689	3,721	2,499	2,114				
4	新たに開発した「かつやま逸品」の数 (商品) ※H27～R3累計	目標値	—	13	14	14	15	15	20	26	達成	○商品数を増やすこと以上に、より魅力的な商品の開発が重要。 ○売れる商材とするため、開発段階から消費者ニーズを把握している勝山市観光まちづくり圏や支援機関と連携すべき。
		実績値	13	16	17	19	23	24				
5	鳥獣害による被害面積率 (%) ※米、麦、そばの作付面積比	目標値	—	1%以内を維持	達成	○抑制に成功している要因を分析し、1%以内を維持してほしい。						
		実績値	1.37%	1.59%	1.88%	0.73%	0.51%	0.16%				
6	市内中高生および若者によるまちづくり団体への助成件数 (団体) ※H27～R3累計	目標値	—	16	23	31	40	50	55	60	未達成	○なにかやりたいという若者が多い事がわかることから、今後も支援を継続していただきたい。
		実績値	10	18	26	31	37	44				

重点戦略3 縁結びから子育て、教育まで、充実した環境の中で、勝山を誇れる次の世代を育てる

① 重点戦略に係る数値目標 (KPI)

No	重点戦略に係る数値目標 (KPI)	項目	平成26年度 (基準値)	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度 (目標値)	達成度	委員の意見
1	合計特殊出生率	目標値	—	—	—	—	—	—	—	1.65	判断時期未到来	○県平均を超えることを目指し、各施策をアピール・実施してほしい。 ○現在の実績値はどうか。実績値の推移、全国や県内市町村との比較が必要。
		実績値	1.53	—	—	—	—	—	—	—		

② 重点施策

No	施策名	担当課	内容・実績 (令和元年度)	課題と対応策 (令和2年度以降)	委員の意見
1	婚活情報発信等の強化	福祉・児童課	<ul style="list-style-type: none"> ●福井婚活カフェホームページや市ホームページ、フリー情報誌、市広報を通じた宣伝に加え、市内の企業を訪問し、人事担当者等に結婚相談やイベント紹介を行った。あわせて、市のイベントに参加しやすい環境づくりにも協力いただいた。 【R1実績】 フリー情報誌：2回掲載 企業訪問：12企業（イベント参加者あり） 	<ul style="list-style-type: none"> ●価値観が多様化するなかで、交際・結婚の相手選びも多様化している。公共がもつ安心して誰もが参加できる相談体制や環境を整えることが重要であり、今後も、バラバラやセクハラにならない程度に企業の協力も得つつ、新たなネットワークも活用したイベント紹介等を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○価値観の多様化やプライベート保護の中、難しいと思うが、誰もが参加できる環境の構築に努めていただきたい。
2	地域行事・活動等を通じた出会いの場の創出	福祉・児童課	<ul style="list-style-type: none"> ●40歳以下の未婚男女に参加を募り、見学・体験イベントを実施した。 【R1実績】 男女の交流イベント 2回 (H30:2回) ・カトラリーづくりと食事交流会：20名 (ロンドンバスで移動、鯖江市で木製カトラリー作り、越前市でお食事会) ・滋賀県ローザンベリー散策と食事交流会：19名 ・料理教室 0回 ・イベント終了後の担当職員によるフォローアップの実施 ・成婚件数 2件 	<ul style="list-style-type: none"> ●40歳以下の未婚男女の交流イベントを実施したところ、男性に対する女性の評価が低迷し、交際に至ったという連絡を受けることができなかった。第一印象を含めた男性のスキルアップのセミナー等の開催を検討する。 ●初対面の男女が参加するイベントのため、長く会話続けることが難しい参加者もみられる。イベントは、なるべく多くのカリキュラムを盛り込むことで話題に事欠かないよう努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○セミナーは婚活イベントの前にやる方が効果的ではないか。 ○各小中高の学年単位で行う同窓会に補助をしてはどうか。既婚者も含まれるが、形としては自然に実施できると考えられる。 ○未婚の方にはレクリエーション感覚で参加してもらえるようなイベント・環境づくりが重要になるのではないか。 ○マッチングアプリの登場、普及など社会環境も変化している。広域化と狭域化、大変だろうが、地元ならではの施策を考えて欲しい。
3	子育て支援の充実とPRの強化	健康長寿課	<ul style="list-style-type: none"> ●母乳相談、産婦健診、不妊治療費助成等の支援を継続して実施した。 ●産後の支援として、すこやかでの育児相談や、子育て支援センターでの産婦人科医や保健師によるミニ講座を実施した。 【R1実績】 母乳相談：実人数22人、延べ人数25人 産後2週間健診：5件 1ヶ月健診：21件 不妊治療費助成：申請件数21件、助成額：2,828,000円 育児相談：実件数81件、延べ件数220件 産婦人科医のミニ講座：3回 保健師のミニ講座：5回 	<ul style="list-style-type: none"> ●安心して妊娠、出産できる環境をつくるため、福井勝山総合病院産婦人科と連携し事業の充実を図ってきた。今後も病院との連携を密にし、産後ケア事業の拡充を検討していく。また、妊娠期からの支援として、妊産婦医療費助成事業を実施し、さらなる充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○1人目、2人目を出産した方に、どのような子育て支援が必要か、座談会などを開いて生の声を集めて、施策に反映すべき。 ○これがしっかり出来ないとう人口の市外転出にも繋がる。 ○市政も十分理解し取り組んでおられると認識しているが、勝山市(奥越圏内)で出産ができないことは大きな問題である。その中で、出来ることを充実させることが必要ではないか。

No	施策名	担当課	内容・実績(令和元年度)	課題と対応策(令和2年度以降)	委員の意見
4	子育てしながら働く女性への支援	未来創造課	<ul style="list-style-type: none"> ●働いている女性や求職中の女性に向けた講座開催を支援した。 ●啓発の一環として、他団体主催の各種講座をHP等で周知、産業フェアや市役所玄関、サンプラザにおいて、女性の就業支援等に関するリーフレットを配布、ふくい女性活躍支援センターの紹介チラシを市内で回覧した。 ●勝山市男女共同ネットワーク主催の講座では、子育て期の女性が参加しやすい体制を整えるためチャイルドルームを設置した。 【R1実績】 <ul style="list-style-type: none"> ・県労働委員会主催の「夜間労働相談会」について市広報・HPにおいて周知 ・ハローワーク大野再就職支援セミナー開催(12名(勝山会場参加者)) ・ふくい女性財団主催の働く女性に向けたセミナー等を市HPに掲載(5回) ・チャイルドルームの設置を支援(2回) 	<ul style="list-style-type: none"> ●市が関与する行事等において、子育て世代が参加しやすい日時・内容を検討し、チャイルドルームの設置について呼びかけ、支援を行う。 ●子育て期の女性が働きやすい企業が増えるよう「ふくい女性活躍推進企業」の周知を強化し、女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画の策定を支援する。 ●出産・子育てにより離職した女性の再就職を支援するセミナーについて、PRの強化を図る。 	○講座やセミナーに参加した女性の声を聞いて、今後の課題を特定すべき。
5	地域医療体制の充実・確保	健康長寿課	<ul style="list-style-type: none"> ●かかりつけ医の推進について、市民に周知するため地域に向いて講座を行った。 【R1実績】 <ul style="list-style-type: none"> 地域包括支援センター、社会福祉協議会と共同で4回実施 407人参加 ●医療介護人材緊急確保奨励金の交付 【R1実績】 <ul style="list-style-type: none"> 医療：新規2件、継続4件 介護：新規5人、継続7件 	<ul style="list-style-type: none"> ●コロナ禍で多くの人を集めた講座は難しいが、コロナ禍の時こそかかりつけ医の推進や医療の現状についての理解が重要である。感染予防のための正しい知識の普及とともに、かかりつけ医の推進について継続して広く市民に周知していく。 ●U・Iターン施策と連携し情報共有することで少しずつ交付者は増えている。令和2年には、障害者施設従事者と薬剤師を加え対象者を広げさらに人材の確保と移住定住の促進を図っていく。 	○少しでも感染しないように免疫力UPのための食事方法などの講座も検討してはどうか。 ○かかりつけ医と関係病院との連携、これについて市民に分かりやすい説明をさらにに行い、かかりつけ医へのより一層の安心感を持ってもらうことも大事と考えられる。
6	特色ある教育の推進と情報発信の強化	教育総務課	<ul style="list-style-type: none"> ●環境教育やふるさと教育を柱としたESDの推進を継続し取り組んだ。取組みの一部を、市環境フォーラムや各町(文化祭等)、各校、ユネスコスクール関連団体の行事の際に発表したり市HPにESDのページを設けるなど、発信する場を増やした。毎年実施している調査においては、地域行事への参加率や地域について考える意識について、高い水準を維持しており、いずれも国・県の数値を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域を題材としたESDの推進のために、これまで構築してきた市役所や公民館、町内のまちづくり団体等とのつながりをさらに継続・推進していく。 ●市内の学校間交流や現在取り組んでいる学校外への発信を継続するとともに、市外、県外との交流について支援する。 	○ジオパークの理念を通し教育に努め、意識調査において国・県の数値を上回っていることは高く評価できる。ふるさと良さを幼少のころから教育することは地道ですが大切である。

③ 重要業績評価指標

No	重要業績評価指標(KPI)	項目	平成26年度(基準値)	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度(目標値)	達成度	委員の意見
1	市への結婚相談件数(件) ※H27～R3累計	目標値	—	100	200	300	400	500	750	950	達成	○相談内容の分析や、その相談にどのように対応したのかをしっかりと記録しておくべき。
		実績値	88	170	330	508	659	775				
2	出生数に対する勝山市出産連携事業を利用した人の割合(%)	目標値	—	42	44	46	48	50	50	50	未達成	○悩みが少ない(身近に相談相手がいる)から目標以下なのか、相談しにくいのか、また他の自治体はどうか調査すべき。
		実績値	40	35.6	50.3	46.9	48.3	45.7				
3	勝山市に住み続けたい。またはいったん離れてもまた帰ってきたいと思っている中高生の率(%)	目標値	—	—	—	—	—	—	—	65%	判断時期未到来	○中学生のうちは帰ってきたいという声が多い感じがするが、高校生以上では、変化があるのではないかと。 ○実績値の推移は確認していく必要がある。
		実績値	53%	—	—	—	—	—	—	—		

重点戦略4 豊かな地域コミュニティの中で、いつまでも健康で、安全・安心に暮らせるまちを創る

① 重点戦略に係る数値目標 (KPI)

No	重点戦略に係る数値目標 (KPI)	項目	平成26年度 (基準値)	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度 (目標値)	達成度	委員の意見
1	勝山市の人口 (人)	目標値	—	24,360	23,990	23,640	23,310	23,000	23,000	23,000	未達成	○人口減少の対策を考えるうえでも、実績値の減少が、自然減、社会減、いずれの要因によるものなのかを検証すべき。
		実績値	24,754	24,359	23,978	23,585	23,186	22,777				

② 重点施策

No	施策名	担当課	内容・実績 (令和元年度)	課題と対応策 (令和2年度以降)	委員の意見
1	地域医療体制の充実・確保	健康長寿課	※重点戦略3 事業No5	※重点戦略3 事業No5	—
2	健康長寿の推進	健康長寿課	<p>●元気な高齢者が虚弱になることを予防するために、フレイル予防に関する普及啓発を行った。また、フレイルサポーターを養成し、地区においてフレイルチェックを実施した。リハビリ専門職を活用して、フレイル予防のための口腔講座・運動講座を実施した。</p> <p>【R1実績】 フレイル予防の普及啓発 地区サロン 34回 フレイルサポーター 12名養成 フレイルチェック・口腔・運動講座 1地区</p> <p>●「健康長寿！一番体操教室」について、実施地区に対して、毎年効果測定を行うとともに、介護予防に関する講座を行うこととし、継続支援を行った。地区コーディネーターに新規地区の呼びかけを行ったが、希望する地区はなかった。</p> <p>【R1実績】 7地区を継続支援</p> <p>●R2年3月から、新型コロナウイルス感染症対策により、介護予防講座や健康長寿！一番体操教室、地区サロン等が中止となった。</p>	<p>●新型コロナウイルス感染症により、長期間の自粛生活が続いている。自粛による活動量の低下や人との交流の減少によるフレイル（虚弱）状態が進む可能性がある。</p> <p>●新型コロナウイルス感染症の影響により、参加者を大勢集めて講座等を行うことが困難となった。感染症対策をとりながら、フレイル予防・介護予防を推進できるような内容や方法を検討する。</p> <p>●今後も、フレイルサポーターやリハビリ専門職の協力を得ながらフレイル予防の普及啓発やフレイル予防講座等を推進する。</p>	○コロナ終息（緩和）時に、再開できる準備を今から行っておくべき。ジオアリーナを活用するなど、筋力強化により自力歩行等、介助が要らない（少なくて済む）生活を目指すべき。
3	高齢者支援体制の充実	健康長寿課	<p>●H30年度に引き続き、医療・介護関係者、地域の民生委員や区長、一般住民等を対象とした多職種連携研修会を実施（3回）。内容は、寸劇を通して医療と介護の実態を伝え、グループワークを行った。</p> <p>●在宅医療の推進として、ACP（アドバンスケアプランニング）や看取りに関する内容の多職種連携研修会を開催（2回）。</p> <p>●介護認定を受けている方の自立支援を目的に、地域ケア個別会議を実施（4回、8ケース）。個別の事例毎に、現状や課題を整理し、サービス内容の検討を行った。また、地域ケア推進会議（1回）を開催し、事例検討から出された共通課題とその課題に対する取り組みについて意見交換を行った。</p> <p>●認知症事業として、認知症初期集中支援チームの活動内容を検討委員会を、情報交換連絡会を開催した。また、認知症の方やその家族の支援事業や市民が認知症について関心をもち、正しく理解するための認知症フェアを開催した（講和、ミュージカル、体験コーナー等）</p> <p>【R1実績】 認知症相談対応（39件） 認知症カフェ（15回、延べ166人参加） 認知症家族のお話会（6回、延べ16人参加） 認知症フェア（約200人参加）</p>	<p>●多職種連携研修会を一般住民も対象としたことで、医療と介護の連携について地域全体で理解を深めることにつながった。</p> <p>●地域ケア個別会議による事例検討を継続し、事例の共通課題から、高齢者の生活ニーズを把握し、新たな支援やサービスの創出などにつながるように、関係者と連携して取り組んでいく。</p> <p>●地域包括支援センターを周知し、介護や認知症等に関する相談体制を強化していく。</p> <p>●新型コロナウイルス感染症の影響により、研修会等の開催が困難となった。感染症対策に備え、オンラインを活用した研修会や会議の開催に取り組んでいく。</p>	○認知症にもっと関心を持ってもらうために、各事業所に対して、認知症サポーター講習の受講を推進すべき。

No	施策名	担当課	内容・実績(令和元年度)	課題と対応策(令和2年度以降)	委員の意見
4	利用しやすいバス体系の整備	環境政策課	<ul style="list-style-type: none"> ●地域からの要望を受け、コミュニティバス停留所の新設(遼羽町ほう崎ふれあい会館)を行った。 ●「わたしの時刻表」作成サービスを実施した。(H29から継続) ●高齢者対象のバスの乗り方教室を実施した。(野向、鹿谷、荒土地区) ●奥越明成高校入学者を対象にバス利用促進PR活動を実施した。 ●病院専用時刻表を作成し、病院への設置を依頼した。(いとうクリニック、木下医院) 	<ul style="list-style-type: none"> ●継続的な市民からのニーズの把握と利用実態の検証を行い、より利用しやすいバス路線を構築する。 ●「わたしの時刻表」作成サービス、高齢者対象のバスの乗り方教室や高校入学予定者へのバス通学の説明、病院専用時刻表の作成などを通じ、バスの利用促進をPRしていく。(継続) ●商業施設専用時刻表の作成、妊産婦対象のバス無料チケット発行、運転免許証自主返納事業における無料乗車区域の拡大等を実施し、バスの利用促進を図る。(新規) 	<p>○交通弱者にとって、利用しやすいバス体系の整備は大変重要である。若年者だけでなく、高齢者の運転免許証返納もあり、一層、サービスの向上に努めていただきたい。</p>
5	市民が楽しめるレジャー施設・店舗等の充実・誘致	商工観光・ふるさと創生課	<ul style="list-style-type: none"> ●道の駅については、市民利用を促進するため、使用申込方法、使用料について勝山市民を優遇する内容の管理運営仕様書を作成した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●道の駅における農林水産物等の委託販売の手数を勝山市民に対して補助することで、販売品目の充実を図る。 	<p>○補助を継続し、生産者が出品しやすい体制を構築すべき。 ○販売品目の拡大、販売量のさらなる増大に期待している。</p>
6	総合的防災体制の構築	監理・防災課	<ul style="list-style-type: none"> ●勝山市総合防災訓練を住民避難訓練をメインとし、北郷地区と野向地区の2地区で実施。各地区で災害発生時の避難行動の確認のほか、「炊き出し訓練」や「救急救命訓練」、「簡易トイレ設置訓練」、「災害時特設公衆電話設置訓練」等、地域住民による避難所での自主運営を目的とした訓練を行った。 ●各地区での防災出前講座の実施 6回 ●自主防災組織の新規設立は発坂区、片瀬町区、坂東島区の3組織が設立。R1年度末現在、112地区中、66組織設立済み ●防災情報伝達手段の強化として、高齢者世帯等を対象に固定電話へ情報を配信する「音声一斉配信サービス」を導入した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●勝山市総合防災訓練では、実際の要配慮者と連携した避難訓練等を実施する等、より実践的な訓練メニューを新設する。 ●地区の防災出前講座等において、自主防災組織の役割・重要性を説明し、未設立の地区については設立を呼びかける。また、運営しやすい自主防災組織連絡協議会の設立を目指す。 ●空き家についての状況把握や対策を検討するため、「区長会」や「空家等対策協議会」、その他関係機関との連携を強める。 ●福井県の想定最大規模降雨による浸水想定区域の指定や、その他の県管理河川の水害リスク図の策定に併せて勝山市ハザードマップの改訂に取り組む。 ●土砂災害警戒区域内および浸水する恐れのある要配慮者施設への避難確保計画の策定のために県と連携し、避難確保計画の作成講習会を開催し、対象となる要配慮者施設の避難確保計画の策定を促す。また、避難確保計画に基づいた避難訓練の実施を促す。 	<p>○防災に関しての情報伝達手段が以前と比べて良くなっていると感じる。 ○自主防災組織設立時の補助金等、勝山市の取り組みは評価できるが、実務として要配慮者の確認と個人情報保護の問題に当たる。非常時における情報共有のスキームが必要ではないか。</p>
7	雪と共生するまちづくりの推進	都市建設課 ジオパーク・まちづくり課	<ul style="list-style-type: none"> ●雪室商品のブランド化を目的とした「勝山雪室ブランド推進会議」を新たに立ち上げ、各々が雪室商品の開発に向けた活動を行った。 ●勝山雪室ブランド推進会議のアドバイザーとして福井大学工学部講師、仁愛大学准教授に組織加入を頂き、より学術的、専門的な側面から、勝山雪室ブランドの価値を底上げできる体制作りを構築した。 ●雪室に関する研修会等を行い、各種食材の雪室保存での品質向上効果や各地の事例などについて、学び、雪室の可能性や勝山雪室について広く市民に周知してもらう機会の提供を行った。 <p>【R1年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雪室学習会の開催 1回 ・雪室研修会の開催 2回 ・雪室そばの提供 8店舗参加 ・勝山雪室ブランド推進会議 4回 	<ul style="list-style-type: none"> ●雪室の魅力を感じ、勝山雪室のブランド化に資する雪室商品の開発を組織一丸となって進め、各所での販売を促進する。 ●当組織に強い影響力や営業力、広報力等をもつ人や店舗(企業)を受け入れることにより、勝山雪室ブランド力の強化と資金面での充実を目指すし、将来的には自立できる組織を目指す。 	<p>○福井県のなかでも雪の多い地域として、雪との共生に関する情報発信を積極的に行っていただきたい。</p>

③ 重要業績評価指標

No	重要業績評価指標 (KPI)	項目	平成26年度 (基準値)	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度 (目標値)	達成度	委員の意見
1	防災行政無線整備率 (%) (音声が到達する戸数率)	目標値	—	82%	84%	87%	90%	—	—	—	達成	○引き続き、次の防災体制の検討につなげていただきたい。
		実績値	80%	90.70%	94.10%	94.80%	94.80%	—	—	—		
2	市内自主防災組織数 (組織)	目標値	—	59	65	72	80	81	82	83	未達成	○組織数が伸びない要因をしっかりと分析し、組織数が増えるよう対策を講じていただきたい。
		実績値	53	55	61	61	63	66				
3	健康寿命の延伸 (歳)	目標値	—	男78.7歳 女83.5歳	男78.7歳 女83.5歳	男78.7歳 女83.5歳	男78.8歳 女83.6歳	男78.8歳 女83.6歳	男78.7歳 女84.0歳	男78.6歳 女84.4歳	一部未達成	特になし
		実績値	男78.7歳 女83.5歳	男78.4歳 女83.9歳	男78.46歳 女83.86歳	男78.44歳 女84.38歳	男77.95歳 女84.12歳					

地方創生交付金等事業 効果検証

事業No	地方創生交付金 種別	事業名称	担当課	頁
1	地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金(地方創生先行型)実施計画 上乗せ交付分タイプⅡ	(仮称)勝山市観光まちづくり会社(公社)の設立事業	商工観光・ふるさと創生課	1
2	地方創生加速化交付金	越前加賀インバウンド推進事業		2
3	地方創生推進交付金	越前加賀インバウンド受け入れ体制等整備事業		3
4	地方創生拠点整備交付金	「勝山ニューホテル」のリニューアルによるリゾートブライダル推進事業		4
5	地方創生拠点整備交付金	勝山温泉センター「水芭蕉」リニューアルによる恐竜観光周遊拠点整備事業		5
6	企業版ふるさと納税	勝山市まちなか誘客プロジェクト		6
7	地方創生推進交付金	勝山市観光まちづくり株式会社によるふるさと回帰事業		7
1	地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金(地方創生先行型)実施計画 上乗せ交付分タイプⅡ	内水面漁業振興計画の策定	農林政策課	7
2	地方創生加速化交付金	九頭竜川鮎の地域ブランド化による漁業振興		8
3	地方創生推進交付金	地域ブランド「九頭竜川勝山あゆ」を活かした観光振興事業		9
1	地方創生加速化交付金	福祉発!まちの経済活性化事業	健康長寿課	9
2	地方創生推進交付金	地域包括ケアビジネススタート事業		10

地方創生交付金等 効果検証

事業No	事業名称	事業内容	令和元年度の取組内容と実績			実績値を踏まえた事業の今後の方針			担当課
1	(仮称) 勝山市観光まちづくり会社(公社)の設立事業	<ul style="list-style-type: none"> ●(仮称) 勝山市観光まちづくり会社設立に必要な資金・事業運営計画の策定 ●勝山市に所在の登録有形文化財「旧料亭花月楼」のリノベーションに向けた改修費用(耐震含む)を見積もるための調査実施 ●「ゆめおれ勝山」等への無料公衆無線LAN整備 	<ul style="list-style-type: none"> ●まちなかの拠点「花月楼」に加え、恐竜博物館前の「勝山市ジオターミナル」を勝山市観光まちづくり株式会社が一元的にマネジメントし、観光客のまちなか誘客と市全体の観光消費額の増大を図った。 			<ul style="list-style-type: none"> ●まちなかの拠点「花月楼」、恐竜博物館前にオープンした「勝山市ジオターミナル」、令和2年オープン道の駅を勝山市観光まちづくり株式会社が一元的にマネジメントし、これら3つの拠点を活用して観光客のまちなか誘客と市全体の観光消費額の増大を図る。 ●道の駅でイベント等を開催し、特産品のPR等を行うことで、まちなかへの誘客、観光消費額の増大につなげる。 			商工観光・ふるさと創生課
	交付金の種類	主な支出	事業費(円)	開始年度	終了年度	総合戦略の位置付け			
	地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金(地方創生先行型)実施計画 上乗せ交付分タイプII	<ul style="list-style-type: none"> ●商工会議所への補助金 ●公衆無線LAN工事費 	2,517,200	H27.9	H28.3	重点戦略1 施策(1)			
	勝山市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議 委員の意見								
<p>○道の駅が観光客だけでなく、地元の人にも活用いただける施設になる事を期待する。 ○3拠点がそろう、今後の拠点を活かした具体的取り組みの成果を期待する。 ○花月楼、ジオターミナル、道の駅の3拠点が完成し、更なる「観光の産業化」の推進に向けた事業に交付金を活用していただきたい。 ○地道な実態の把握から、一元的マネジメント、機能的連携に結びつけていただきたい。</p>									
事業No	事業名称	事業内容	令和元年度の取組内容と実績			実績値を踏まえた事業の今後の方針			商工観光・ふるさと創生課
2	越前加賀インバウンド推進事業	<ul style="list-style-type: none"> ●4市1町により「越前加賀インバウンド推進機構」を設立し、旅行・広告プロモーションのプロとコラボレーションした観光誘客を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●これまでの「越前加賀宗教文化街道～祈りの道～推進協議会」を発展させ、新たに官民一体となった広域的組織「越前加賀インバウンド推進機構」を設立し、観光プロモーションビデオやパンフレットの作成、インフォメーションの多言語化を図り、小松空港や関西国際空港等で活用を図ったほか、旅行・広告プロモーションのプロ(JTB)とのコラボレーションにより、海外に向けた宣伝活動、旅行商品の造成、メディア・旅行会社の招聘等を実施した。 			<ul style="list-style-type: none"> ●整備した多言語コンテンツを活用し、過去の訪日外国人のデータを収集・分析することにより、アフターコロナ時のマーケティングに活かす。 			
	交付金の種類	主な支出	事業費(円)	開始年度	終了年度	総合戦略の位置付け			
	地方創生加速化交付金	<ul style="list-style-type: none"> ●外国人の意向調査分析委託 ●多言語ツール制作(パンフレット・DVD・HP) ●セールスコール旅費 ●海外メディア向け広告出稿費・海外メディア記者や旅行エージェント招聘費 ●各観光施設向けインバウンドセミナー講師謝金 等 	7,000,000	H28.4	H29.3	重点戦略2 施策(4)			
	本事業における重要業績評価指標(単位)			指標値	H28	H29	H30	R1	R2
指標①		外国人観光宿泊客数(人)	目標値	3,500	3,800	4,150	4,550	5,000	未達成
			実績値	2,689	3,721	2,499	2,114		
勝山市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議 委員の意見									
<p>○インバウンドの集客に期待する。 ○今までの市職員の経験をアフターコロナのマーケティングに是非生かしてもらいたい。</p>									

地方創生交付金等 効果検証

事業No	事業名称	事業内容	令和元年度の取組内容と実績			実績値を踏まえた事業の今後の方針			担当課
3	越前加賀インバウンド受け入れ体制等整備事業	<p>●4市1町により設立した「越前加賀インバウンド推進機構」のDMO化を進めながら、旅行・広告プロモーションのプロとのコラボレーションやICTを活用し、外国人観光客の受け入れ体制と滞在環境の整備を進める。</p> <p>【平成30年度事業（全5カ年事業）】</p> <ul style="list-style-type: none"> 受け入れ体制・滞在型環境整備に関するシステム整備 観光ガイド及びコンシェルジュの育成 二次交通整備の運行中期計画策定 インフォメーション強化システム整備 交通拠点を活かした海外誘客戦略の策定 広域連携プランの商品販売及び独自運用の検討 海外セールスコール開催 海外広報・プロモーション実施 	<p>●多言語対応しているデジタル情報スタンドや広域観光アプリ等による情報提供を継続して行った。また、マーケティングデータ収集システムの運用と収集データの分析を行い、今後のプロモーション戦略を策定した。</p> <p>●レンタカーOTAとタイアップしたレンタカー商品造成および販売促進プロモーションを行った。</p> <p>●越前加賀エリアの民間事業者と連携し、海外旅行エージェン特への営業訪問や商談会の参加、旅行フェア等への出展など現地セールスコールを実施するとともに、海外各メディアに広告を掲載し、越前加賀エリアの認知度向上と誘客を図った。</p> <p>●ホームページのコンテンツを拡充し、WEBによる情報発信を強化するとともに、ターゲット国の旅行雑誌への広告掲載やメディア・旅行雑誌記者・有名ブロガー等を招聘し、越前加賀エリアの現地露出を増加させることにより、認知度向上を図った。</p>			<p>●新型コロナウイルス感染症拡大により、当分の間は外国人観光客の誘客が見込めない。よってアフターコロナの旅行時に「選ばれる」エリアとなり得るよう、ホームページ等での情報発信を引き続き行っていく。</p> <p>●勝山市観光まちづくり圏と連携しながら、外国人向けの着地型コンテンツの開発・拡充を行っていく。</p>			商工観光・ふるさと創生課
	交付金の種類	主な支出	事業費（円）	開始年度	終了年度	総合戦略の位置付け			
	地方創生推進交付金	<p>下記に係る委託費</p> <ul style="list-style-type: none"> 受け入れ体制・滞在型環境整備に関するシステム整備 観光ガイド及びコンシェルジュ育成研修会の開催 インフォメーション強化システム整備 交通拠点を活かした海外誘客戦略推進 広域連携プランの商品販売 セールスコール開催 広報・プロモーション実施 	5,500,000	H28.4	R3.3	重点戦略2 施策(4)			
	本事業における重要業績評価指標(単位)		指標値	H28	H29	H30	R1	R2	事業の効果
	指標①	外国人宿泊客数（人/年間） ※増加分のみ記載	目標値	250	300	350	400	450	未達成
			実績値	△810	1,032	△1,222	△385		
	指標②	観光入込客数（人/年間） ※増加分のみ記載	目標値	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	達成
		実績値	△37,666	181,379	△68,654	107,738			
勝山市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議 委員の意見									
<p>○インバウンドの集客に期待する。 ○アフターコロナや北陸新幹線延伸を見据えて、本事業の効果検証を含め、しっかりとインバウンド受入体制を整備していくべき。 ○外国人向けの着地型コンテンツの内容をしっかりと詰めていただきたい。</p>									

地方創生交付金等 効果検証

事業No	事業名称	事業内容	令和元年度の取組内容と実績			実績値を踏まえた事業の今後の方針			担当課	
4	「勝山ニューホテル」のリニューアルによるリゾートブライダル推進事業	<ul style="list-style-type: none"> ●勝山ニューホテルを中心として市内の魅力ある観光資源を活用した勝山ならではのロケーションの中で様々な「リゾートブライダル」を提案・PRするとともに、観光地での結婚式後の披露宴会場や参加者の宿泊においてホテルを利用してもらうため、老朽化している箇所の改修を行い魅力を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ●施設長寿命化のための機械設備更新と客室の一部を改修を改修した。また、スタッキングベッドを導入したことで、宿泊キャパが増大したため、2月以降の新型コロナの影響を吸収するかたちで利用者数および売上ともに増加した。 			<ul style="list-style-type: none"> ●引き続き、東急リゾート&ステイ倶と連携を密にし、計画的な施設のリニューアルを行う。R2も引き続き施設長寿命化のための機械設備更新と3階客室の改修、客室備品の更新を行う。また、恐竜ルームを新設することで、他宿泊施設との差別化を図る ●それにあわせ、県外観光客の誘致やリピーターの確保に向け、MICE利用の獲得に向けた営業活動や昼食立ち寄りなど外来客使用の促進といった対策を、東急側と検討しながら展開する。 			商工観光・ふるさと創生課	
	交付金の種類	主な支出	事業費(円)	開始年度	終了年度	総合戦略の位置付け				
	地方創生拠点整備交付金	<ul style="list-style-type: none"> ●1階リノベーション工事 正面玄関リノベーション ロビーリノベーション レストランリノベーション 物販エリア新設 ●2階リノベーション工事 ロビー・宴会場リノベーション 6階リノベーション工事 ●スカイラウンジリノベーション 地下リノベーション工事 シャトー・クリスタルリノベーション 	97,696,400	H29.4	H30.3	重点戦略2 施策(2)				
	本事業における重要業績評価指標(単位)		指標値	H28	H29	H30	R1	R2		事業の効果
	指標①	勝山ニューホテル売上(千円) ※増加分のみ記載	目標値	41,299	12,166	3,438	6,215	4,438		達成
			実績値	3,774	49,284	36,152	12,201			
	指標②	勝山ニューホテル婚礼組数(組) ※増加分のみ記載	目標値	0	1	1	2	2		未達成
			実績値	2	△2	2	△2			
	指標③	勝山ニューホテル宿泊者数(人) ※増加分のみ記載	目標値	1,223	263	263	262	360		達成
			実績値	△885	5,052	3,004	2,706			
勝山市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議 委員の意見										
<p>○恐竜ルームの記事が福井新聞に掲載されていたが、恐竜好きのファミリー層に良いと考えられる。</p> <p>○ブライダル事業にこだわらず、現在取り組んでいる恐竜ルーム新設などの差別化戦略を継続していただきたい。</p>										

地方創生交付金等 効果検証

事業No	事業名称	事業内容	令和元年度の取組内容と実績			実績値を踏まえた事業の今後の方針			担当課	
5	勝山温泉センター「水芭蕉」リニューアルによる恐竜観光周遊拠点整備事業	●市民向けの健康増進施設「勝山温泉センター水芭蕉」を現在の機能を残しつつ、恐竜のイメージにマッチした新たなアミューズメント機能を有する温泉へと改修し、まち全体として進める恐竜ブランド化をさらに加速させる。	●観光客向けの情報発信としてホームページ拡充やSNSの強化、スキージャム勝山が行うジオイルミネーションと連携した集客を行った。 ●10月は台風、1月～3月は暖冬・新型コロナウイルスの影響により利用者数や売上げが大きく減少した。それ以外の月については利用者数・売上ともに対前年を上回った。			●飲食機能・宿泊機能を強化するとともに、化石が発掘される地層をモチーフとしたロビーへと内装改修することで、利用客数・売上げの増大を図る。			商工観光・ふるさと創生課	
	交付金の種類	主な支出	事業費（円）	開始年度	終了年度	総合戦略の位置付け				
	地方創生拠点整備交付金	●浴室改修 ●脱衣室内装改修と機械室出入口新設 ●屋外休憩エリア新設 ●地下ピット拝観改修 ●設計監理委託	47,359,600	H29.7	H30.3	重点戦略2 施策(2)				
	本事業における重要業績評価指標(単位)		指標値	H29	H30	R1	R2	R3		事業の効果
	指標①	温泉センター水芭蕉売上（千円） ※増加分のみ記載	目標値	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000		未達成
			実績値	9,253	△ 2,071	△ 6,738				
	指標②	温泉センター水芭蕉利用者数（人） ※増加分のみ記載	目標値	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000		未達成
			実績値	3,183	2,248	△ 8,540				
	指標③	温泉センター水芭蕉利用者数のうち市外利用者数（人） ※増加分のみ記載	目標値	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000		
			実績値	4,525	-	-	-	-		
勝山市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議 委員の意見										
○リニューアルオープンして良い施設になったと聞いている。市民の活用を期待する。 ○リニューアル後の還元の状況をしっかりと把握すべき。										

地方創生交付金等 効果検証

事業No	事業名称	事業内容	令和元年度の取組内容と実績			実績値を踏まえた事業の今後の方針			担当課	
6	勝山市まちなか誘客プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ●商工会議所・地元金融機関・地元の若手経営者と行政が協働して設立する勝山市観光まちづくり株式会社が実施する下記の取組みに対し、「企業版ふるさと納税制度」により支援し、まちなかへの誘客促進や中心市街地のにぎわい再生、観光消費額の拡大（しごとづくり）を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ・「伝統的な食と文化の魅力」をテーマに地元区民・商店主と連携して実施する拠点施設の整備 ・着地型観光コースの造成及び都市圏観光業者への企画提案 ・周辺観光地との二次交通手段の確保等に向けた取組み 	<ul style="list-style-type: none"> ●まちなかの拠点「花月楼」に加え、恐竜博物館前の「勝山市ジオターミナル」を勝山市観光まちづくり株式会社が一元的にマネジメントし、観光客のまちなか誘客と市全体の観光消費額の増大を図った。 ●大都市圏での商談会に参加し、大手旅行者に対し、花月楼発着のまちなか巡りツアー等の提案や魅力的な観光スポットのプロモーション活動を行った。 			<ul style="list-style-type: none"> ●まちなかの拠点「花月楼」、恐竜博物館前にオープンした「勝山市ジオターミナル」、令和2年オープンの道の駅を勝山市観光まちづくり株式会社が一元的にマネジメントし、これら3つの拠点を活用して観光客のまちなか誘客と市全体の観光消費額の増大を図る。 ●引き続き、大手旅行者に対するプロモーション活動を行う。また、まちなかイベントについては、特に若年層・子育て世代が楽しめるようなものに改良していく。 			商工観光・ふるさと創生課	
	交付金の種類	主な支出	事業費（円）	開始年度	終了年度	総合戦略の位置付け				
	企業版ふるさと納税	<ul style="list-style-type: none"> ●旧料亭花月楼整備 ●まちづくり会社による着地型観光コースの造成や都市圏観光業者に対する企画・提案等の取組みに係る支援 	—	H28.4	R2.3	重点戦略2 施策(2)				
	本事業における重要業績評価指標(単位)		指標値	H28	H29	H30	R1	R2		事業の効果
	指標①	まちなか誘客プロジェクトによる観光客の増加数(人) ※増加分のみ記載	目標値	2,000	12,000	16,000	22,000			達成
			実績値	△ 19,520	6,542	△ 48,003	45,536			
	指標②	まちなか誘客プロジェクトによる観光消費額の増(万円) ※増加分のみ記載	目標値	300	2,400	3,200	4,400			未達成
		実績値	△1,358	455	△ 3,341	3,169				
勝山市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議 委員の意見										
<p>○市内の方でも、まちなかにどんな施設があるのか知らない方が多い。花月楼の場所も先日知ったという方もいて、まだまだまちなか誘客には時間がかかると考えられる。</p> <p>○H30とR1を比較すると観光客が大幅に増加している。効果的な施策は何か分析し、次年度に向けて継続して欲しい。また、引き続き大手旅行者が取り扱いたくなる観光ツアーの策定や観光スポットのプロモーション活動に取組み、まちなかの観光客や観光消費額増に向けて取組んでいただきたい。</p>										

地方創生交付金等 効果検証

事業No	事業名称	事業内容	令和元年度の取組内容と実績			実績値を踏まえた事業の今後の方針			担当課	
7	勝山市観光まちづくり株式会社によるふるさと回帰事業	<ul style="list-style-type: none"> ●勝山市観光まちづくり株式会社が、市内企業や市民、マスコミ、市外（都市圏）の大学生等を巻き込み、産官学金言の連携の基に、人口の社会減に歯止めをかけるため下記の事業を実施する。 ・市内企業や商工会議所とともに市内企業のインターンシップ受入や魅力の発信に向け、ふるさと回帰研究会を開催 ・市内企業のインターンシップ受入事業の実施とPR ・市内企業に係る情報発信 ・ふるさと回帰をテーマとした映画の制作と活用 ・勝山に対する愛着心醸成のためのプロモーション動画制作 ・勝山市観光まちづくり株式会社の運営拠点の1つであり、情報発信の拠点である「ジオターミナル」の整備 ・勝山市観光まちづくり会社の地域商社化に向けた取組み 	<ul style="list-style-type: none"> ●市内企業の魅力を伝えるための情報発信コンテンツとしてH30に制作した、企業紹介冊子「いんとり」とそれにリンクしたHPの充実を図った。(20社 → 50社) ●企業体験プログラム（インターンシップ）の内容等を伝えるパンフレットのほか、企業説明会で活用していただくためのチラシ作成を進めるとともに、企業の1日体験及び5日体験プログラムを実施した。 ●市内企業の「採用力」の向上に向けて、企業塾を開催した。 ●市内の中高校生に市内企業を知ってもらうため、①市内中学生向けの企業合同プレゼンテーション ②勝山高校生向け市内企業1day体験を実施した。 ●企業支援を行うだけでなく、勝山市観光まちづくり株式会社を中心として、民間の視点から勝山市の魅力を発信する地元愛情誌「ROOTs」の発行も行った。 			<ul style="list-style-type: none"> ●情報発信コンテンツとして制作した企業紹介冊子「いんとり」とそれにリンクしたHPについては、企業から非常に好評であり、新たに掲載を望む企業も出ていることから、さらなる内容の充実を図る。 ●市内企業の一部ではあるが、専門家を招いた企業塾への参加等により、今後の採用活動の効果発現に向け、確実に意欲・ヤル気が湧き始めている。この流れを断ち切らぬようR2からも、引き続き地方創生推進交付金を活用し、新たな「採用力」向上の対策を講じる。 			商工観光・ふるさと創生課	
	交付金の種類	主な支出	事業費（円）	開始年度	終了年度	総合戦略の位置付け				
	地方創生推進交付金	下記に係るまちづくり会社への委託費等 <ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと創生、ふるさと回帰に向けた調査 ・地元企業インターンシップ支援事業 ・若者、学生向け企業紹介雑誌の作成 ・上記紹介企業紹介WEBページを作成 ・勝山市の素晴らしいさをPRするためのフリーペーパー（地元愛情情報誌）の発刊 ・ふるさと回帰をテーマとする映画の制作と活用 ・都市圏大学の芸術学科等の学生対象ショートムービー制作と活用 ・ジオターミナル活用に向けた備品整備 ・ジオターミナル活用に係る土産物開発 	22,799,468	H29.10	R2.3	重点戦略1 施策(5)				
	本事業における重要業績評価指標(単位)		指標値	H29	H30	R1	R2	R3	事業の効果	
	指標①	勝山市内における新規学卒者の雇用者数 (人/年間) ※増加分のみ記載	目標値	1	2	2	4	4	達成	
			実績値	7	4	2				
	指標②	勝山市への転入者人口数 (人/年間) ※増加分のみ記載	目標値	7	8	8	9	9	達成	
		実績値	△9	△10	35					
指標③	勝山市観光まちづくり会社及び関連会社の雇用者数 (人/年間) ※増加分のみ記載	目標値	3	5	1	12	3	達成		
		実績値	4	6	6					
勝山市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議 委員の意見										
○この事業を通して、現在の企業の採用活動の現状、学生の現状などわかるので良い。引き続き、市内の企業の採用活動の支援が必要だと感じる。 ○ふるさと回帰事業は継続して取り組んでいく事業です。企業経営者・従業員、学生・生徒からの意見を取り入れながら、新しく工夫のある事業に取り組んでいきたい。 ○色々な取り組みにより、全て目標を達成しており、今後も方針に記載の積極的な取り組みに期待する。 ○企業の人手不足は全国的な傾向であり、勝山市へのU・Iターンに積極的に取り組むために専門の部署を設け、ふるさと回帰事業に取り組んだことは意義がある。短期間で効果がでるのは難しく、今後とも事業を継続していくことが必要である。 ○「いんとり」に関して、採用がうまくいっている企業の例のさらなる精査を行い、それを今後を生かしていくことを期待する。										

地方創生交付金等 効果検証

事業No	事業名称	事業内容	令和元年度の取組内容と実績			実績値を踏まえた事業の今後の方針		担当課			
1	内水面漁業振興計画の策定	<ul style="list-style-type: none"> ●漁業者の収入向上に向け、アユ・イワナ等の食用淡水魚の市場全体及び内水面釣り客等の市場規模を分析し、市場の概況や今後の需給予想を立てるための調査を実施 ・勝山市管内における各魚種の漁獲・遊漁証発行状況等調査 ・福井県を含む全国における遊漁証発行状況及び内水面漁業振興策の状況調査 	<ul style="list-style-type: none"> ●「九頭竜川勝山あゆ」を地域ブランドとして確立するために策定した内水面漁業振興計画に基づき、業務用冷蔵庫の購入や「九頭竜川勝山あゆ」を活用した商品開発などハード・ソフト両事業を展開した。その結果、売上額の増加につなげることができた。 			<ul style="list-style-type: none"> ●引き続き、策定した内水面漁業振興計画に基づき、ハード・ソフト両観点から「九頭竜川勝山あゆ」を活かした漁業振興事業を展開し、令和2年6月20日にオープンした勝山市道の駅「恐竜渓谷かつやま」において、鮎関連商品を出品し、「九頭竜川勝山あゆ」の知名度の向上と集出荷体制の確立を図っていく。 		農林政策課			
	交付金の種類	主な支出	事業費(円)	開始年度	終了年度	総合戦略の位置付け					
	地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金(地方創生先行型)実施計画 上乘せ交付分タイプII	下記に係る勝山市漁業協同組合への補助等 <ul style="list-style-type: none"> ・清流めぐり利き鮎会への出品 ・大阪フィッシングショーへの出展 ・漁協女性部による商品開発 ・「九頭竜川勝山あゆ」の商標登録に係るセレモニー開催 ・真空包装機の購入 ・業務用冷蔵庫の購入 ・勝山市水産業振興協議会の運営 ・道の駅における出店計画の策定 	982,800	H27.3	H28.2	重点戦略2 施策(5)					
	勝山市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議 委員の意見										
下記事業とあわせて意見聴取											
事業No	事業名称	事業内容	令和元年度の取組内容と実績			実績値を踏まえた事業の今後の方針		担当課			
2	九頭竜川鮎の地域ブランド化による漁業振興	<ul style="list-style-type: none"> ●評価の高まっているアユを活用した漁業所得の向上を図るため、アユの安定供給体制の確保と販路開拓・ブランド化に取り組む。 ・アユの安定的な共同集荷・釣り客からの受入、冷凍から出荷までの体制確立に向けた準備 ・九頭竜川鮎の商標登録と商談会等への参加によるPRの実施 ・急速冷凍機や冷凍庫等の購入 	<ul style="list-style-type: none"> ●冷凍庫を整備し、改修した施設を活用して鮎の買取り・販売事業に取り組んだ。また、「九頭竜川勝山あゆ」のブランド化をさらに推進するために、研修や新商品、新パッケージの開発、勝山市観光まちづくり会社との連携強化に取り組んだ。その結果、漁獲高及び買取り量が増加したが、目標を達成するには至らなかった。 			<ul style="list-style-type: none"> ●新商品の開発やPRなど勝山産あゆの知名度向上につながる事業を展開しても、大雨や台風の影響に漁獲高が左右され、売上額増加につながらない面がある。河川整備などハード面から漁獲高の安定化を図りつつ、漁獲高低下による全体売上額への影響を回避するため、通年販売ができる鮎関連商品の開発や「道の駅」を核とした商品販売、鮎イベントの展開、全国に向けた新たな販路開拓を重点的に進め、全体の事業バランスを鮎関連商品の普及促進などソフト事業へ徐々にシフトさせるなかで、売上額の安定化を図る。 		農林政策課			
	交付金の種類	主な支出	事業費(円)	開始年度	終了年度	総合戦略の位置付け					
	地方創生加速化交付金	<ul style="list-style-type: none"> ●アユの安定的な共同集荷・釣り客からの受入・冷凍から出荷までの体制確立に向けた提案・実証事業の委託 ●九頭竜川鮎の商標登録 ●地域ブランド確立のためのPRツール制作とPR活動等 ●急速冷凍機や冷凍庫等の購入 	13,200,000	H28.4	H29.3	重点戦略2 施策(5)					
	本事業における重要業績評価指標(単位)			指標値	H28	H29	H30		R1	R2	事業の効果
	指標①	アユによる漁業組合の売上額(千円)		目標値	16,590	17,598	18,606		19,614	20,623	未達成
			実績値	16,918	16,382	10,016	12,207				
勝山市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議 委員の意見											
<p>○観光客をターゲットとするなら道の駅は効果的である。</p> <p>○ブランド鮎の周知が不足しているのではないか。</p> <p>○冷凍鮎があるのであれば、「道の駅」へ出荷すべき。炭火焼に固執せず、柔軟な商品提供による安定出荷を図るべき。出荷意欲のある組合員への加工場の貸し出し、提供、また販路開拓の為、県の「福食市」(https://buyer.fisc.jp/)や商談会などに参画し、認知向上を図ってはどうか。</p>											

地方創生交付金等 効果検証

事業No	事業名称	事業内容	令和元年度の取組内容と実績			実績値を踏まえた事業の今後の方針		担当課	
3	地域ブランド「九頭竜川勝山あゆ」を活かした観光振興事業	<ul style="list-style-type: none"> ●鮎のブランド化と安定供給体制の確保、鮎を用いた加工品の開発、県内外への強力なPR活動を実施し、令和2年春オープン予定の道の駅や市内の飲食店等で鮎が食べられる環境を整える。それにより観光消費額の増加を図り、市内の漁業者や民間事業者等の所得向上につなげるとともに、働く場所の創出を図る。 ・急速冷凍、解凍、保存方法等の品質向上対策 ・イベント等への出店、販売 ・新商品の試作 ・各種検討会議の実施 ・道の駅における出店計画の検討 ・「九頭竜川勝山あゆ」ブランドの周知 ・食育事業や環境美化活動に係る取組み 	<ul style="list-style-type: none"> ●鮎の安定供給体制の確保を目的として、鮎の買取・販売事業を実施した。また、鮎を用いた新商品（鮎のソースかつ丼、鮎の熟れずし、鮎の甘露煮）の開発、新たなパッケージデザインの作成、さらに県内外へのPR活動や研修等を実施した。それらの取組みが、観光消費額や観光入込客数の増加、漁協の売上額の増加の一助となっていると考える。 			<ul style="list-style-type: none"> ●令和2年6月20日にオープンした勝山市道の駅「恐竜渓谷かつやま」を拠点として、勝山市観光まちづくり株式会社等の関係機関との連携をさらに強化し、「九頭竜川勝山あゆ」のブランド化、鮎の販路開拓・拡大に努める。 ●隣接する大野市漁協や奥越漁協、中部漁協、国、県等とも連携し、勝山漁区だけでなく、九頭竜川全体において鮎のブランド化の取組みを進めていく。 		農林政策課	
	交付金の種類	主な支出	事業費（円）	開始年度	終了年度	総合戦略の位置付け			
	地方創生推進交付金	<ul style="list-style-type: none"> 下記に係る勝山市漁業協同組合への補助等 ・清流めぐり利き鮎会への出品 ・大阪フィッシングショーへの出展 ・漁協女性部による商品開発 ・「九頭竜川勝山あゆ」の商標登録に係るセレモニー開催 ・真空包装機の購入 ・業務用冷蔵庫の購入 ・勝山市水産業振興協議会の運営 ・道の駅における出店計画の策定 	2,910,000	H29.10	R3.3	重点戦略2 施策(5)			
	本事業における重要業績評価指標(単位)		指標値	H29	H30	R1	R2	R3	事業の効果
	指標①	勝山市漁業協同組合と勝山市観光まちづくり株式会社、事業に関連する民間事業者の社員雇用人数（人/年間） ※増加分のみ記載	目標値	3	7	1	14	4	未達成
			実績値	4	△ 5	0			
	指標②	勝山市漁業協同組合の売り上げ額（遊漁証の販売額と鮎の販売額）（千円/年間） ※増加分のみ記載	目標値	700	800	800	850	850	達成
			実績値	△ 536	△ 6,366	2,191			
	指標③	観光入込客数（万人/年間） ※増加分のみ記載	目標値	5	5	5	5	5	達成
			実績値	18	△ 7	11			
指標③	観光消費額（億円/年間） ※増加分のみ記載	目標値	0.90	0.90	0.92	1.15	1.40	達成	
		実績値	3.70	△ 0.08	3.03				
勝山市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議 委員の意見									
<ul style="list-style-type: none"> ○コロナがおさまったら、こども向けのあゆ釣り体験など積極的にPRしてほしい。 ○本気でブランド化に取り組むのであれば、広告代理店との連携やSNSの活用などを検討すべき。 ○是非ブランド化を強力に進めてほしい。 ○勝山あゆの知名度を向上させる施策について、そのブランド化に関しても多方面からの検討を期待する。 									

地方創生交付金等 効果検証

事業No	事業名称	事業内容	令和元年度の取組内容と実績			実績値を踏まえた事業の今後の方針			担当課	
1	福祉発！まちの経済活性化事業	<ul style="list-style-type: none"> ●医療・看護・介護・福祉等の垣根を越えて高齢者の地域包括ケアを行う任意団体（ケアブレイクかつちやま）の活動を充実・強化し、介護保険等では対応できない高齢者の生活ニーズを把握し、それを地域経済の活性化に結び付ける。 ・高齢者の生活ニーズ調査実施 ・事業実施主体（ケアブレイクかつちやま）と事業賛同の地元業者が高齢者ニーズを情報共有し、それをマッチングにつなげるためのHP作成 ・高齢者の生活を支援する商品開発 ・買い物支援等の事業に携わるボランティア等の人材育成に向けた研修や講演会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ●地方創生加速化交付金事業としては、平成28年度で終了しており、その取組みを発展させ、平成29、30年度に「地域包括ケアビジネススタート事業」を実施し終了している。 			<ul style="list-style-type: none"> ●新型コロナウイルス感染症の影響により、相談会等の実施が困難になっているが、感染症対策をとりながら、買い物ハビリ、終活に関わる事業等を推進していく。 			健康長寿課	
	交付金の種類	主な支出	事業費（円）	開始年度	終了年度	総合戦略の位置付け				
	地方創生加速化交付金	<ul style="list-style-type: none"> ●高齢者の生活ニーズ調査 ●情報共有・啓発用HP作成 ●高齢者お守りファイルの開発 ●買い物リハビリ導入事業 ●ファシリテーター養成講座事業 ●介護・終活フェア 	9,423,001	H28.4	H29.3	重点戦略4 施策(3)				
	本事業における重要業績評価指標(単位)		指標値	H28	H29	H30	R1	R2		事業の効果
	指標①	健康寿命の延伸（歳）	目標値	男78.4 女83.9	→			男78.8 女83.6		判断時期未到来
			実績値	男78.46 女83.86	男78.44 女84.38	男77.95 女84.12				
	指標②	ケアブレイクの事業に賛同し認証を受けた事業所数（社）	目標値	10	12	15	20			—
			実績値	18	23	21	0			
	指標③	買い物支援サービスを利用した高齢者の数（人）	目標値	10	30	60	100			—
			実績値	5	17	82	0			
指標④	お助けマン(ボランティア)の養成数（人）	目標値	20	25	35	40		—		
		実績値	0	6	11	0				
勝山市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議 委員の意見										
<p>○こんな時期だからこそ対策をし、買い物サービスや相談会を積極的にこなうべき。 ○市が中心となり、さらなるムダのない、効率的な、機能的な連携体制を構築してもらいたい。</p>										

地方創生交付金等 効果検証

事業No	事業名称	事業内容	令和元年度の取組内容と実績			実績値を踏まえた事業の今後の方針			担当課	
2	地域包括ケアビジネススタート事業	<p>●医療・看護・介護・福祉等の垣根を越えて、高齢者の地域包括ケアを実践する任意団体「ケアブレイクかっちやま」の活動を充実・強化することにより、介護保険等では対応できない高齢者の生活ニーズを正確に把握し、民間企業へフィードバックすることで新たなサービスを構築し、地域経済の活性化につなげていく。</p> <p>【平成30年度事業（全2カ年事業）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中心市街地に位置する市内唯一のショッピングセンターで買い物をしながらリハビリに取り組むシステムの構築 ・買い物後に商品を自宅まで自力で持ち帰れない高齢者向けの宅配システムにかかるニーズを調査・研究し、地元企業・商店とのマッチングによる新たなサービス提供システムを構築 ・終末期のニーズ把握や終活に関する相談に対応できるアドバイザー等の人材育成 	<p>●「地域包括ケアビジネススタート事業」は、平成29、30年度で終了しているが、引き続きケアブレイクかっちやまにおいて、終活相談や買い物リハビリの先進地への視察など行い、取り組みを行っている。</p>			<p>●新型コロナウイルス感染症の影響により、相談会等の実施が困難になっているが、感染症対策をとりながら、買い物リハビリ、終活に関わる事業等を推進していく。</p>			健康長寿課	
	交付金の種類	主な支出	事業費（円）	開始年度	終了年度	総合戦略の位置付け				
	地方創生推進交付金	<ul style="list-style-type: none"> ●買い物リハビリ試行事業 ●買い物ボランティア養成事業 ●買い物宅配システム開発事業 ●公共交通検証会議 ●地域包括フェアの開催 ●終活相談の実施 ●終活アドバイザー養成 	2,771,500	H29.6	R1.3	重点戦略4 施策(3)				
	本事業における重要業績評価指標(単位)		指標値	H29	H30	R1	R2	R3		事業の効果
	指標①	ショッピングセンター売上額（万円） ※増加分のみ記載	目標値	12,175	3,498	3,568	3,640	3,731		未達成
			実績値	5,910	△ 2,865	△ 4,788				
	指標②	ショッピングセンター客数（人） ※増加分のみ記載	目標値	29,804	17,981	18,341	18,707	19,082		未達成
		実績値	36,340	△ 5,848	△ 5,512					
指標③	買い物支援サービスを利用した高齢者数（人） ※増加分のみ記載	目標値	150	300	150	150	150	未達成		
		実績値	17	65	0					
勝山市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議 委員の意見										
<p>○こんな時期だからこそ対策をし、買い物サービスや相談会を積極的におこなうべき。</p> <p>○任意団体の活動として、2カ年で事業として定着させるには、困難であると考えられる。交付金事業の結果、勝山市として必要な事業・サービスと判断するのであれば、市役所として関与・サポートすることを検討してはどうか。</p> <p>○どのような形であればリモートが可能か、簡易携帯の利用なども含め、相談事業の一層の推進を図っていただきたい。また買い物支援サービスの利用が多くはない。せっかくそのようなサービスがあるのであれば、その理由を多角的に検討していただきたい。</p>										